関小学校学校運営協議会だより №4

令和元年 10 月 16 日

運動会が開催されました

天気が心配されましたが、９月 28 日（土）に運動会が開催されました。２４０名の子どもたちが、学年をこえた４つの縦割りに分かれて競い合いました。 当日は 小さなお子さんから中学生、保護者、祖父母の皆様、地域の皆様と大勢の方が参加してくださいました。

第４回関小学校学校運営協議会が開かれました

９月２０日に第３回教育協議会が開かれました。今回は関小学校の特別支援教育について考え方や現在の取り組み、まなびの教室について話し合われました。

会長のあいさつから

・神奈川県の事件があってから、１か月パトロールして感じたことが２点あります。一つは毎日地域の方や学校関係者の交通指導をしていただいていること。もう一つは歩道と車道の境を歩いている児童にバイクに乗りながら声をかけたが、バイクから降りて具体的な声かけが必要であることを感じた。

校長のあいさつから

・２学期たくさんの行事があります。子どもたちは行事を通して成長していくことになりますが、よくない姿を見せる時もあります。多くの大人の目で子どもを見守りながら、情報を共有して育てていきたい。
・特別支援教育がスタートして１０年以上になりますが、まだ十分理解されているとは言えない。“特別扱い”の特別ではなく、その子にあったオリジナルな教育であると理解してほしい。偏見を持った人に出会ったら、このメンバーからもそうではないということを発信していってください。

関小の特別支援教育について

１　関小の子どもたちの様子
・学校全体が落ち着いている。遅刻も減っている。校舎内で大きな声を張り上げている子は少ない。授業中は静かである。廊下に出ている子もほとんどいない。以前に比べ教室以外の場所でふらふらしている子は減っている。
・特別な支援が必要な子どもも短い指示や合言葉（運動会の練習ではフォーメーショ

ンＡで並ぶなど）でうまくいっている。

- 運動会の練習。合図で静かにできる。遅れて入ってくる児童が減った。ひとつの行動にかかる時間が少なくなった。ほとんど時間の余裕をもって練習が終わる。
- 個別の支援の必要な児童は減ってはいない。
- 様々な理由で教室（学習）に入りにくい児童も少数いる。

２　学級の中の特別支援…Ａさんへの配慮がみんなの学びやすさにつながる

「ユニバーサルデザイン」の教室・授業

その子にとって居場所のいい場所はみんなにとって居心地がよくなる。

- 視覚的に刺激が多いと気が散る子→教室前面をすっきりさせる。(カーテンで隠す。)
- 聞いたことはすぐに忘れる、話に集中しにくい子
  →言葉に添えて絵カードの使用。ホワイボードに示す視覚支援。
- 見通しが立たないといらいらする子。身についた流れのほうが学習しやすい子。
  →授業の流れを示す工夫。全学級で言葉も統一して指導。
- 全体の指示だけでは動けず、不安がある子。
  →個別の配慮、声かけ。周りの子どもにも理解を図る。
- 発達の課題などでみんなと学習するときに困ることがある子。
  →まなびの教室より

３　通級教室（まなびの教室）

- 普通学級に在籍している子どもで苦手(行動面・学習面・コミュニケーションの面)な子どもに指導している。発達の未成熟な部分を支援やフォローしている。
- 本人への直接指導を週に１回授業をしている。一人ひとりの学習を計画し、未発達・苦手な部分をさがす。その子にあった学習やトレーニングをする。得意なところを認知してもらい、伸ばして自信をつけさせる。
- 本人を取りまく人や物の支援と環境づくり。周りの人がその子にあわせたつき合い方・指導
- 環境調整、合理的配慮をどこまでできるのかを一緒に考えていく。
- 担任との連携(情報交流や連携した指導)
- 保護者との連携も大事である。(必要に応じて話し合い)

４　特別支援学級では…「自立活動」について

- 生活につながる、将来につながる力を実体験を通してつけていく。
  買い物学習、サーキット（体づくり)、調理実習、栽培活動など

５　地域の方へ…お願いしたいこと

- 登下校指導（見守り・声かけ）ありがとうございます。名前を読んでもらえるとうれしい。毎朝かけてもらっている「おはよう」がその子の習慣になり、力になる。これからもよろしくお願いします。
- 子どもの成長は受け止めている家族の支えが大きい。また、その子のことを心配している家族（お母さん・兄弟）もいる。ありのままを見てもらえる人がたくさんいることが安心につながる。土台となっている家族の支えと暖かい人たちが周りにいると心強い。